

## パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

|           |                        |
|-----------|------------------------|
| グループ名     | シューレ大有志石巻支援を風化させない会    |
| 支援対象者・エリア | 宮城県・福島県                |
| 企画開催地     | 石巻・福島・気仙沼・東京           |
| 企画名称      | 息の長い石巻地域復興・不登校・ひきこもり支援 |
| 実施期間      | 2019年7月～2020年3月        |

## 支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

震災の年の連休に石巻に被災地支援で行き、規模が小さいゆえに支援があまりこない小さな浜の集落に出会いました。殆どの家も漁船も養殖の筏も津波で流されているのに支援があまり来ていませんでした。家は単に生活の場ではなく、思い出のものが詰まった記憶が形になったものもあり、被災者からは「思い出のあるものが全部なくなってしまって、本当に私は生きてきたのか誰かに疑われたら、自分でも信じられなくなりそう」と云うようなことも聞きました。私たちにできることは微力だけれど、これは長い期間関わることが必要で、せめてそのくらいは出来るのではないかと考え、立浜という小さな集落に継続的に支援活動を始めました。活動を通して、被災地で不登校・ひきこもりを経験する子ども・若者の増加を知り、不登校・ひきこもりの若者が生き方を創る場であるシューレ大学の経験が生きる活動が必要とされている、と感じ、経験共有の活動を石巻、ついで気仙沼、さらに昨年の郡山に引き続き2019年度は福島で活動しました。

被災地の子ども・若者には、震災を経験して大きく生き方に影響を受けた人と、当時小さくてほとんど覚えていない人が混ざってきています。そんな子ども・若者たちの中でも経験が共有できたり、しにくかったりという違いが生じています。ほとんど記憶が無い子どもたちに震災の影響がないかと云えばそうとも言えません。家自体が大きく被災していたり、家族の心の傷が今もあったり、その中で生きている子ども・若者があります。複雑さが増してきていると感じます。

## 活動の様子（写真など）



石巻で養殖わかめの種付け作業



フリースクール・ビーンズふくしまで話を聞く

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。